

徳商版 お接待プロジェクト ～食でおもてなしをしよう～

藤井 みなさんこんにちは
私たちは徳島ホストタウン特使 徳島商業高校2年の〇〇です

藤井 きっかけ

私たちは平成24年からカンボジア日本友好学園と連携した活動を行っている
カンボジア日本友好学園の自立運営支援活動から始まった
内容は共同商品開発を行って販売を行い、販売収益で学校運営費の一部を生み出すこと
そのことがきっかけで徳島県はカンボジアのホストタウンとなり、私たちは徳島県知事からホストタウン特使に委嘱された
その後も3か国が対象国として追加された
各国の対象種目は画面の通りです

兼子 これまで

私たちはホストタウン特使として「知ってもらおう・広げる・盛り上げる」をモットーに活動を行っている（知ってもらおう・広げる・盛り上げるは各自説明）
私たちが行うすべての活動は、四国ならではの（四国八十八カ所ある）「お接待の心」を持って取り組んでいる
これまでに様々な活動を行ってきた

藤井 例えば

カンボジア、ネパールのオリンピック候補選手を徳島県に招き、自然体験プログラムを体験していただいたこと
私たちも観光開発に携わっている徳島県美波町椿谷地区へ選手を招き、川で泳いだり海でのSUP体験、川辺でのBBQをしていただいた。そのときの様子がこちら

森 Exiting！！

藤井 その他にも、「初めてこんなにきれいな川に入った」などの感想があった
楽しんでいただけたとともに、徳島の魅力を知ってもらえる絶好の機会となった
その他にも
たくさんの東京2020大会関連イベントに参加させていただいている
カンボジア産のヤシ砂糖を使用したお菓子を販売したり、活動紹介パネルなどを設置して徳島のホストタウン活動をアピールしてきた

兼子 具体的内容

今回は、最も新しくホストタウン対象国になったジョージアへの取組について具体的にお話ししていく

私たちはカンボジアにおけるホストタウン活動をする中で、カンボジアの選手から「これまで選手村で母国の料理が出ないことが寂しい」という意見を聞いた
そこで、対象国それぞれの選手が母国の味を日本でも楽しむことができればベストパフォーマンスをできるのではないかと考えた
また、パラリンピック選手の実入れも決まり、私たちも障がいを持つ方に対応できるようにしたいと思った。

森 ○徳商デパートでの商品開発（ハチャブリのクイズ）

まずは食のおもてなしに向けた取り組みについてお話しする
本校で毎年開催されている徳商デパートでは、生徒が商品の企画や開発を行い販売をしている
昨年度は、カンボジアの伝統的な遊び「ダーカウ」や伝統料理「クイティウ」を紹介したところ、多くの方に興味をもっていただけた。
突然ですがここでみなさんに質問です
こちらのパン、なんという名前でしょうか
1 ハチャブリ 2 ムチャブリ 3 ムチャブリ 4 モチャベリ
正解は1のハチャブリです
これは今年度の徳商デパートで生徒と社会福祉法人が運営するみすずパン工房と開発した、ジョージアの伝統食であるチーズが入ったハチャブリというパン

兼子 また、今年の体験型スポーツはパラリンピック競技でもあるボッチャ
私たちがボッチャについて知らなかったため、みなと高校でのボッチャ大会に参加して、ボッチャについて知るところから始めた
ボッチャは初めての人でも簡単に楽しめるスポーツだという事が分かった
そして徳商デパートでは子どもから大人まで多くの方に体験していただき、「もう一回したい」と言ってくれた子ども達もいました。
このように、徳商デパートでは、高校生が東京 2020 大会への関心を深めるとともに県民の方にも興味を持ってもらうことができた
毎年秋に行っている徳商デパートだが、来年度は東京 2020 大会までに開催することを検討しており、東京 2020 大会への意識向上を最後に図りたいと考えている

藤井 ○ジョージアの大使とコーチ本校訪問、その際の要望、徳島の素材を用いて

12月10日には駐日ジョージア臨時代理大使とパラリンピック選手コーチが本校を訪問された
私たちは英語でこれまでのカンボジアにおけるホストタウン活動を発表した
また、ハチャブリやカンボジア産のヤシ砂糖を用いたどらやきを食べていただき好評や感想をいただいた
ジョージア食のレシピ本も買ったので参考にしながら徳島の素材を使った新たな開発をしていきたい
例えば、今考えているのは、牛肉や鶏肉をワインで煮た“チャホベリ”

徳島県産の阿波尾鶏や野菜をジョージアのワインで煮こむと良いコラボ料理になると考えている

森 ○パラコーチVR体験

パラリンピック選手のコーチには私たちが制作したVRを体験してもらった

そのVRは、先ほどもお話しした、私たちも観光開発に携わっている徳島県美波町椿谷地区にあるジップラインの様子

ちょうど、椿谷地区に障がい者向けツアーを行う予定でいたため、インストラクターをつけたら障がいをもつ方は実際に体験できそうかと聞いたところ「インストラクターをつけても厳しい」と言っていた

でも、「楽しかった」「これ（VR）なら体験できるね」と言ってくれた

藤井 ○徳島のファンを作る

私たちはこれまで椿谷地区でツアーを行い、自然アトラクションであるジップラインを体験プログラムの中に取り入れてきた。

しかしこの体験プログラムはあくまで健常者向け。ホストタウン特使としては、パラリンピック選手の方にもジップラインを楽しんでもらいたい！そして、徳島のファンになってもらいたい！

VR映像を通してジップラインを体験してもらえば、いつでもどこでも徳島の自然の魅力に触れることができるのではないか

兼子 ○障害に合わせて工夫したおもてなし

食のおもてなしの準備は整ってきたように思うが、パラリンピック選手に対しての、おもてなしをする十分な知識を知らなかった。そこで徳島県障がい者活躍推進室の原内室長から障がいを持つ方への対応の仕方を伺ったり、障がいの種類による対応の違い、現在普及している障がい者の食器（ユニバーサル食器）について調べた

しかし、ジョージアパラリンピック選手に関する情報を見ていたところ、柔道のチームの方が全員弱視だという事を知り、弱視の方への配慮をできるようになりたいと考えた

そこで次は、弱視の方への配慮の仕方に着目してインターネットで調べることにした

調べて分かった主なことは画面の通りです

これらを受け、日々発声練習している私たちが、提供する料理のメニューをゆっくりはっきりとした声で説明するとともに、メニューの文字を拡大させることを考えている。また、点字付きメニューの作成も検討している。

森 先月の27日には、徳島県障がい者スポーツ協会が主催するパラスポーツフェスティバルに参加して販売活動を行った

車椅子を使用している方や聴覚障がいを持つ方、知的障がいを持つ方なども私たちのブースに足を運んでくれた。そういった機会を通して障がいを持つ方への理解を徐々に深めていっている途中である

これからも障がい者への理解も深めながら各国の食文化に対応できるおもてなしをしていく